早稲田大学大学院 創造理工学研究科

博士論文審査報告書

論　文　題　目

医療安全教育項目の体系化と適用に関する研究

A Study on Structure of Educational Contents for Healthcare Safety and Application

申　請　者

梶原	千里
Chisato	KAJIHARA

経営デザイン専攻　品質マネジメント研究

2013 年　2 月

病院は，複数の職種から構成される組織であり，医療の質を向上させるためには，組織で質保証の活動に取り組む必要がある．そこで，組織的に業務の質を管理，改善するための仕組みである質マネジメントシステム(Quality Management System，以下，QMS)を推進する病院が増えている．安全は質の一つの要素であるが，医療は直接的に人命にかかわる業務が多く，やり直しがきかないという特徴から，特に安全を重視すべきであり，「質・安全」といった表現を用いて安全性を強調することも多い．安全を確保するために医療安全マネジメントを実践することは，QMS の中でも重点的な活動である．

QMS は，業務のやり方を定めた文書類，それらに基づいて業務を実施する人，設備などの経営資源から構成される．その中でも，組織の人員は，QMS を運用する上で最も重要な要素であるとされている．そのため，職員へ継続的に教育を実施していくことが望ましく，医療の場合，医療安全マネジメントを実践するための医療安全教育を実施する必要がある．

しかし，厚生労働省が，病院で医療安全に関する活動を管理，推進する医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針を提示したのは 2007 年であり,十分に医療安全教育が検討されてきたとはいえない．このように，医療安全管理者の教育でさえ整備が遅れており，その他の医療従事者に対する医療安全教育の体制は,さらに整っていないのが現状である．各病院で医療安全教育は行われているが，体系的な教育システムをもっているところは少ない．

したがって，医療安全教育で教えるべき項目を明確にし，体系的な教育を実施するための方法論を開発することは重要な課題であるといえる．これを確立することによって，各病院で体系的な医療安全教育を実施することができ，医療安全マネジメントシステムの効果的，効率的な導入・推進に大きく貢献すると考えられる．

従来研究においても，医療安全に関する教育項目や教育カリキュラム立案方法は提案されている．教育項目に関しては，WHO の WHO Patient Safety Curriculum Guide：Multi-professional Edition など，いくつかのものが提案されている．これらの教育項目では，それを導出するための基本的な考え方や根拠等の基盤が明示的に示されておらず，各教育項目の位置づけが不明確である．そのため，教育項目の網羅性の確認や実施した教育の評価が難しいという問題がある．さらに，従来の教育項目は，業務を行う際にどのように安全を確保するかといった項目が中心であり，医療安全の基本的考え方や運用体制の項目が十分取り上げられていないという問題もある.以上のことから，体系的な医療安全教育の実施に関する第一の課題として，教育項目を導出する基盤を明示的に示し，それをもとに，医療安全の基本的考え方や運用体制などを含めた教育項目を導出することが挙げられる．

教育カリキュラム立案方法に関しては，Harden の 10 段階モデルなどの提

案がある．医療安全教育を実施するには，医療従事者の役割，階層などによって対象者を層別する必要があると考えられるが，このモデルでは，対象者は医学生に限定されており，その方法は示されていない．また，各段階を実施するための支援ツールなどは提案されておらず，カリキュラム立案が難しくなっている．以上のことから，第二の課題として，カリキュラム立案に必要な支援ツールを作成し，対象者の層別方法を含めた教育カリキュラム立案方法を提案することが挙げられる．

本研究では，上述の二つの課題を解決するために，医療安全マネジメントを実践するための医療安全教育項目一覧表と，医療安全教育カリキュラム立案方法を提案することで，病院において医療安全マネジメントシステムを有効に機能させるための体系的な医療安全教育を実施可能にすることを目的とする．なお，本研究では，医療安全マネジメントを実践できる人材を育てるための教育を医療安全教育と定義する．また，医療安全マネジメントの役割に応じて層別された対象者ごとに，役割を達成するために受講すべき教育項目が整理された状態を医療安全教育カリキュラムと呼ぶ．

本研究では，第一の課題を解決するために，教育項目一覧表を提案している．これは，病院で運用すべき医療安全マネジメントシステムを明確にし，それを基盤として医療安全教育で教えるべき教育項目を導出し，整理したものである．また，第二の課題を解決するために，教育カリキュラム立案方法を提案している．これは，医療安全マネジメントの実践における役割を体系的に示す機能図，各対象者が身につけるべき詳細な能力を整理するスキルマップという支援ツールを用いて，医療安全マネジメントの役割で対象者を層別し，各対象者が役割を達成するために必要な項目を一覧表から選定する方法である．

本研究の特長は，教育項目一覧表，機能図，スキルマップという 3 つの支援ツールを提案したことで，医療安全マネジメントの役割に応じた教育カリキュラムを立案できる点である．病院には様々な階層の医療従事者が存在しており，各階層でやるべき活動，担うべき役割が異なる．本研究で提案した機能図により，病院全体として誰がどの活動，役割を担っているのかを体系的に整理できる．また，スキルマップにより，各対象者が役割を達成するために身につけるべき能力を具体的に特定することができる．教育は，ある能力を身につけるために行われるため，具体的な能力がわかれば，それと対応させて，一覧表より必要な教育項目を効率的に選定することができる．

本論文は，以下に示す 7 章から構成されている．

第 1 章では，研究の背景を述べ，本研究の目的を示している．

第 2 章では，医療安全教育，質マネジメント教育，教育カリキュラム立案方法に関する従来研究を概観し，医療安全マネジメントシステムを基盤として，教育項目と教育カリキュラム立案方法を導出した本研究の位置づけを示

している．

第 3 章では，産業界における QMS を参考に，教育項目を検討する際の基盤となる医療安全マネジメントシステムを明確にし，それを運用するために医療従事者が身につけるべき能力を明らかにしている．また，教育項目の全体像を設計し，詳細な教育項目を導出している．そして，導出した教育項目を医療安全マネジメントシステムの構成要素と対応付けて整理し，教育項目一覧表を提案している．さらに，医療安全マネジメントの役割に応じた教育カリキュラムの立案方法を提案している．提案方法では，医療安全マネジメントの実践における機能図を用いて，医療安全マネジメントの推進体制を記述することで,医療安全マネジメントの役割に応じて対象者を層別する.また，スキルマップを作成し，各対象者が身につけるべき能力を特定して，必要な教育項目を一覧表より選定する．

第 4 章では，教育項目一覧表と立案方法を適用して，実際に病院で医療安全教育カリキュラムを立案，実施し，教育項目一覧表と立案方法の有効性を確認している．

第 5 章では，提案した教育項目のひとつである危険予知トレーニング(以下，KYT)を取り上げ，教育を行うための一連の流れを適用した結果を示している．そして，教育を行う際に検討すべき事項を考察している．

第 6 章では,教育項目一覧表および教育立案方法の意義,他研究との比較，KYT の適用結果に関する考察を述べている．

第 7 章では，本研究で得られた成果をまとめ，今後の展望を述べている．

以上のように,本論文で提案する方法論の有効性を実証的に検証しており，実用性も確認している．また，提案方法は，本研究が対象とする体系的な医療安全教育の立案・実施に関する問題に対して様々な工夫がなされている．さらに，病院への適用も 3 施設に活用できるという知見が得られるなど，今後の医療の質向上に関して大きく寄与する成果が得られている．よって，本論文は博士(経営工学) 早稲田大学の学位論文として価値あるものと認める．

2013 年 2 月

審査員(主査)	早稲田大学教授	工学博士 (東京大学)	棟近　雅彦
	早稲田大学教授	博士(工学) 早稲田大学	後藤　正幸
	早稲田大学教授	工学博士 (東京大学)	髙田　祥三
	早稲田大学教授	工学博士 (早稲田大学)	吉本　一穂